

2023 年度（4 月～10 月）の利用状況と決算見込みについて

2023 年 12 月
あいの風とやま鉄道株式会社

I 利用状況

1 利用者数等

(1) 1 日当たりの利用者数等

2023 年4月～10 月までの7か月間の利用者数は、全体で8,735 千人、1 日当たりの利用者数は、40,819 人と、前年比 6. 0%の増加となっています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響がなかった 2019 年との比較では、5. 8%の減少となっており、前年からの回復傾向は継続しているものの、コロナの影響が残っている状況です。

利用者の区分別では、定期が、前年比で1. 9%の増加（うち、通勤が5.3%増、通学が0. 7%減）となっており、2019 年比では4. 6%の減少（うち、通勤が4. 6%減、通学が4. 6%減）となっています。

定期外は、前年比で20. 3%の増加（うち、乗車券類が13. 5%増、ICカードが31. 0%増）となっており、2019 年比では9. 0%の減少（うち、乗車券類が23. 1%減、ICカードが21. 5%増）となっています。

表 1 1 日当たり利用状況等 （4 月～1 0 月）

区分	2023 年	2022 年	2019 年	2023/2022	2023/2019
利用者数（千人）	8,735	8,237	9,273	6.0%	△ 5.8%
1 日当たり（人/日）	40,819	38,495	43,331	6.0%	△ 5.8%
定期利用者	30,387	29,821	31,862	1.9%	△ 4.6%
通勤	13,563	12,884	14,218	5.3%	△ 4.6%
通学	16,824	16,937	17,644	△ 0.7%	△ 4.6%
定期外利用者	10,432	8,674	11,469	20.3%	△ 9.0%
乗車券類	6,033	5,317	7,847	13.5%	△ 23.1%
ICカード	4,399	3,358	3,622	31.0%	21.5%

※ 端数切捨

(2) 月別の利用者数

前年との比較では、合計では、4月から6月までは4%台前半の伸び率となっていますが、7月から9月は、前年同期にコロナ第7波(ピークは8月)の影響により利用者数が減少した反動もあり、伸び率は、7月が6.8%、8月が9.9%、9月が7.7%となっています。

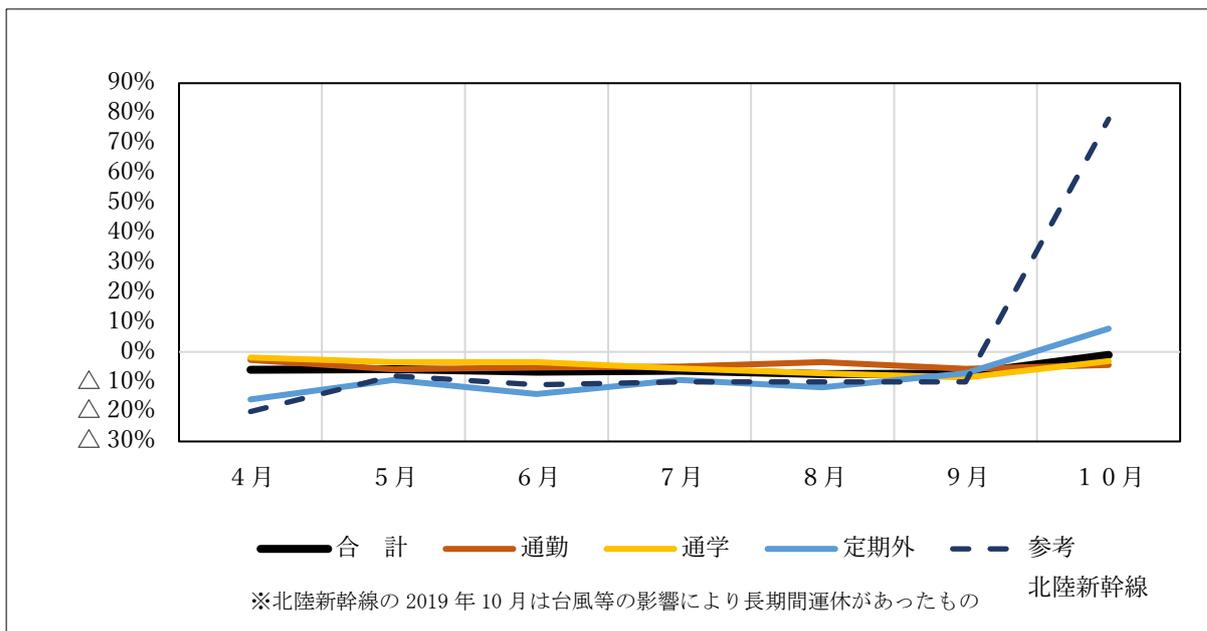
また、定期外は、今年5月のコロナの5類移行に伴う国内観光客やインバウンド客の増加等により、7月から9月は伸び率は増加してきています。

また、2019年比の10月の定期外では、2019年の10月に台風の影響等により当社線で運休を行ったため、7.8%増となっています。

表2 利用者数の月別増減率(4月~10月)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
合計	2022年比	4.3%	4.4%	4.2%	6.8%	9.9%	7.7%	5.4%
	2019年比	△6.0%	△5.8%	△6.6%	△6.3%	△7.4%	△7.3%	△1.0%
定期	2022年比	1.9%	1.7%	1.6%	1.9%	2.2%	1.7%	2.3%
	2019年比	△2.2%	△4.4%	△4.2%	△5.3%	△5.4%	△7.3%	△3.7%
通勤	2022年比	5.0%	5.0%	4.8%	5.3%	6.1%	5.0%	5.8%
	2019年比	△2.7%	△5.8%	△5.3%	△4.9%	△3.5%	△5.7%	△4.4%
通学	2022年比	△0.3%	△0.7%	△0.7%	△0.7%	△1.2%	△0.9%	△0.3%
	2019年比	△1.9%	△3.4%	△3.4%	△5.5%	△7.1%	△8.6%	△3.1%
定期外	2022年比	12.4%	13.3%	14.8%	24.2%	32.6%	29.5%	15.7%
	2019年比	△15.9%	△9.4%	△14.1%	△9.4%	△11.8%	△7.1%	7.8%
乗車券類	2022年比	3.7%	6.1%	7.5%	18.8%	25.4%	24.9%	9.7%
	2019年比	△28.9%	△24.3%	△28.6%	△22.4%	△24.4%	△22.9%	△7.3%
ICカード	2022年比	27.5%	24.9%	26.3%	32.9%	44.4%	36.0%	25.1%
	2019年比	13.0%	23.6%	17.7%	18.7%	15.3%	27.1%	38.2%
参考 北陸新幹線	2022年比	50%	36%	36%	36%	43%	34%	26%
	2019年比	△20%	△8%	△11%	△10%	△10%	△10%	78%

図1 月別増減率の推移(2023年対2019年)



2 運賃収入

2023年4月～10月の運賃収入額は1,713百万円で、前年同期比では16.0%の増加となっています。利用者数の増加率を大幅に上回る増加となったのは、運賃単価の高い定期外利用者が増加したこと、4月から運賃改定を実施(通勤定期 1.06 倍程度、通学定期 1.02 倍程度、普通運賃 1.06 倍程度)したためです。

区分別では、定期が前年比で5.3%の増加(うち、通勤が8.7%増、通学が0.3%増)となっており、2019年比では、2.5%の減少(うち、通勤が3.0%減、通学が1.6%減)となっています。

定期外は、前年比で26.6%の増加(うち、乗車券類が20.0%増、ICカードが37.5%増)となっており、2019年比では、5.3%の減少(うち、乗車券類が20.5%減、ICカードが30.2%増)となっています。

JR切符販売手数料収入も、JR線利用の増加に伴い、前年比52.2%の増加となっています。

表3 運賃収入(4月～10月)

(単位:千円)

区 分		2023 年度	2022 年度	2019 年度	2023/2022	2023/2019	
運賃収益 (税抜)	定期	通 勤	484,339	445,740	499,181	8.7%	△ 3.0%
		通 学	293,899	293,016	298,617	0.3%	△ 1.6%
		計	778,238	738,756	797,798	5.3%	△ 2.5%
	定期外	乗車券類	550,617	458,820	692,495	20.0%	△ 20.5%
		ICカード	384,740	279,774	295,387	37.5%	30.2%
		計	935,357	738,595	987,882	26.6%	△ 5.3%
	合 計		1,713,596	1,477,352	1,785,681	16.0%	△ 4.0%
	JR切符販売手数料収入		21,664	14,231	28,186	52.2%	△ 23.1%

※ 端数切捨

II 決算見込み

○概要

運賃収入については、利用者数の回復が見られることから、2,880 百万円程度を確保できるものと見込んでいます。

営業費用は、電力価額の上昇を受けた動力費の増加や諸物価高騰等に伴う費用の増加が見込まれます。

営業損益は、198 百万円程度の赤字となるものの、最終損益では黒字が確保できると見込まれます。

1 営業収益 5,790 百万円

運賃収入は、利用者数の回復や今年4月からの運賃改定の実施により、前年度比で 333 百万円増の 2,880 百万円程度を見込んでいます。

鉄道線路使用料収入については、前年度をやや上回る 2,092 百万円程度を見込んでいます。

その他、関連事業収入では、利用者数の増加に伴う自動販売機収入やコインロッカー収入の増加などを見込んでいます。

なお、収入額については、今冬の降雪の状況等により、変動することも予想されます。

2 営業費用 5,988 百万円

動力費は、電力価額の上昇を受け、前年度比 67 百万円程度の増加が見込まれ、また、業務費についても、運賃収入の増加に伴う手数料支払の増加や諸物価の高騰等に伴い、前年度比 90 百万円程度の増加が見込まれます。

修繕費は、安全確保のため、ほぼ前年並みの体制で工事等を行っていることや、橋梁塗装の大規模修繕工事を行っていることなどから、除雪費を含め前年度比 76 百万円程度の増加を見込んでいます。

減価償却費、租税公課は、開業後の投資に伴う費用や固定資産税等が増加しています。

3 損益等

上記の他、営業外収支では、受託工事の増加に伴う収入増を見込み、また、特別利益として、燃料高騰対策や施設修繕等に係る費用補助金を 298 百万円程度見込んでいます。

この他、設備投資に係る県経営安定基金補助金等の収入を計上し、固定資産の圧縮処理等を行った後の税引前当期純利益から法人税等を控除した最終損益は、100百万円程度の黒字を見込んでいます。

○各段階での損益

営業損益	△198百万円	(前年度)	△232百万円
経常損益	12百万円	(前年度)	△176百万円
税引前当期純利益	295百万円	(前年度)	44百万円
当期純利益	100百万円	(前年度)	11百万円

2023年度決算見込み

2023/12 あいの風とやま鉄道(株)

単位 千円

科目	2019年度	2022年度	2023年度			備考
	決算	決算	予算	12月決算見込	対2022決算比	
運輸収入	2,956,799	2,574,112	2,755,000	2,915,000	340,888	
運賃	2,913,214	2,547,312	2,730,000	2,880,000	332,688	運賃:2022年度比113%
マルス収入	43,585	26,800	25,000	35,000	8,200	マルス:2022年度比130%
鉄道線路使用料収入	2,069,998	2,075,420	2,250,000	2,092,000	16,580	運立工事の修繕費から建設費へ移行 貨客比率 2022年度:62.45% 2023年度:63.56%
関連事業	217,354	271,318	315,117	288,580	17,262	
清算収入	482,660	464,323	445,300	470,709	6,386	
その他	15,586	17,141	3,053	23,689	6,548	
【売上総利益】	5,742,397	5,402,314	5,768,470	5,789,978	387,664	
人件費	1,936,885	1,763,270	1,820,000	1,803,301	40,031	賞与増等
動力費	280,531	382,593	500,000	450,000	67,407	電力費増加
業務費	710,060	681,435	791,524	771,180	89,745	
清算費用	530,103	505,470	514,100	542,663	37,193	
修繕費	1,968,221	1,844,433	2,033,481	1,920,695	76,262	除雪費含む
減価償却費	155,825	252,929	288,000	288,000	35,071	
租税公課	198,678	204,238	206,700	212,268	8,030	
【販売費・一般管理費】	5,780,303	5,634,368	6,153,805	5,988,107	353,739	
【営業利益】	△ 37,906	△ 232,054	△ 385,335	△ 198,129	33,925	
【営業外収益】	512,433	331,948	1,390,317	1,451,610	1,119,662	受託工事収入等
【営業外費用】	619,086	276,085	1,183,753	1,241,347	965,262	
【経常利益】	△ 144,559	△ 176,191	△ 178,771	12,134	188,325	
【特別利益】	4,384,602	1,926,941	2,462,459	1,660,555	△ 266,386	基金・燃料高騰補助・設備補助
【特別損失】(圧縮等)	4,198,368	1,706,473	2,251,260	1,377,567	△ 328,906	圧縮処理等
【税引前当期純利益】	41,675	44,277	32,428	295,122	250,845	
法人税等	41,290	33,014	23,500	195,000	161,986	
【当期純利益】	385	11,263	8,928	100,122	88,859	2022年度末累積欠損金122百万円